様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　5 月　29 日現在

機関番号：　３２６１２
研究種目：　基盤研究（B）
研究期間：　2008～2010
課題番号：　２０３２００４８
研究課題名（和文）　古代ギリシア正義論の欧文総合研究―プラトン『国家』とその伝統―

研究課題名（英文）　Studies of the Theories of Justice in Ancient Greece: focusing on Plato's *Republic* and its tradition

研究代表者
納富　信留（NOTOMI NOBURU）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：　５０２９４８４８

研究成果の概要（和文）：古代ギリシアにおける「正義」概念を明らかにし、現代社会の諸問題に応える目的で、プラトン『国家』（ポリテイア）を共同で検討した。その研究成果は、将来まとめて欧文研究書として海外で出版することを目標に、国際学会や研究会で報告され、欧文論文として海外の雑誌・論文集に発表されている。2010 年夏に慶應義塾大学で開催された国際プラトン学会大会（プラトン『国家』がテーマ）では、メンバーが運営と研究の中核として、内外の専門家と共同で研究を推進した。

研究成果の概要（英文）：This project examined Plato's *Republic* (*Politeia*), in order to investigate the theories of justice in ancient Greece, and to consider philosophical issues in our contemporary society. The research achievements were written in English, to be presented at several international conferences, and to be published in academic journals and books abroad. The project members played central roles at the IX Symposium Platonicum of the International Plato Society (theme: Plato's *Republic*), held at Keio University in August, 2010, where they discussed the research products with many specialists who came from all over the world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
２００９年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
２０１０年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
年度			
総　計	10,700,000	3,210,000	13,910,000

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：　文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）
キーワード：　西洋古典学、西洋哲学、受容史、正義論、プラトン、国家

１．研究開始当初の背景

古代ギリシアの「正義」論を考察する上で、西洋思想史上もっとも重要な著作と見なされているプラトン『国家』（ポリテイア）は、近年世界各国で文献学・哲学・受容史を中心に研究が大きく進展している。日本でも関心が高まっており、その成果を総括して国際的な場や媒体で発信する必要がつよく認識されていた。

とりわけ、2010 年 8 月に東京三田の慶應義塾大学で開催される国際プラトン学会大会「第 9 回プラトン・シンポジウム」のテーマが『国家』に決定されたことから、それに向けて日本国内で準備が始まっていた。

本プロジェクトは、海外の専門家と共同で集中してこの著作を検討し、それを欧文で発表することで「古代ギリシアの正義論」を再検討していくことを目指して結成された。

２．研究の目的

プラトンの主著『国家』の「正義論」を、最新の研究状況を精査しながら新たに分析し、その研究成果を国際的な学会で発表する。また欧文論文として公刊しながら、今後それを単行本にまとめて海外の学術出版社から公刊することを目指している。

プラトン『国家』を焦点にしながら、その正義論の背景として、ホメロスやヘシオドス以来の西洋古代社会の倫理を考察する作業も必要である。また、『国家』の影響を、アリストテレス、キケロなどに見ていく。本プロジェクトは、そのような西洋古典文学や西洋古代史、古代哲学史にわたる総合的な視野での研究を目指していた。

その際、現在の最先端研究を検討して国内でも紹介し、日本の最先端研究を世界的な場で紹介することを二つの柱としている。その研究活動をつうじて、「正義とは何か」という問題に向き合うため、西洋古典学から現代社会にメッセージを送ることを目指した。

３．研究の方法

研究は４つの柱で進められた。

(1) 共同検討会での欧文論文執筆・検討

プロジェクトでは年間３回程度の共同検討会を開催し、事前に計画された諸テーマについて各分担者が日本語・英語で論文を執筆・報告し、メンバーで検討した。

(2) 国際的な場での成果発表

それらの成果を、国際的な学会や研究会、欧文の論文集や雑誌で随時公刊していった。メンバーは、韓国、中国、オーストラリア、フランス、ドイツ、チェコ、ブラジル、スペイン、イタリア等で開催された学会で研究報告を行っている。

(3) 海外研究者の招聘

このテーマで研究している海外の研究者を招聘し、研究会で集中的に議論すると同時に、講演会を一般にも公開して研究成果の普及にもつとめた。3 年間で招聘した主な研究者は、イギリス・エクセター大学のクリストファー・ギル教授、アメリカ・イェール大学のヴェルティ・ハート教授、オランダ・アムステルダム自由大学のヘラルド・ボーター教授であった。

(4) 国際プラトン学会大会への貢献

2010 年 8 月に開催された第 9 回プラトン・シンポジウムでは、海外からトップの研究者 130 名ほどが来日し、日本の研究者と合わせて 260 名ほどの参加者で 100 あまりの研究発表がなされた。本プロジェクトでは、その学術レベルを高め、広く日本の関連分野の研究者や学生に知ってもらうために、事前に広報活動を行うとともに、参加された海外研究者とプラトン『国家』の研究について具体的な議論や意見交換を行った。日本で開催された本格的な国際学会を場として、日本の西洋古典学・古代哲学研究のレヴェルを大いにアピールした。

４．研究成果

本プロジェクトでは、当初目標とした欧文論文集の骨格となる 10 本あまりの英文論文を、内外の研究雑誌・論文集で公刊した。日本の西洋古典学・古代哲学の研究は、これまでも質の高い成果を生み出してきたが、ほとんどが日本語で発表されたために海外では（単発的な成果以外は）ほとんど知られていなかった。今回、プラトン『国家』について多くのメンバーがまとまって研究論文を英文で発表したために、国際的な注目を浴びている。すでに多くの意見や反応が帰ってきており、それを活かしながら今後さらに研究を発展させていくことが期待されている。

(1) 欧文の研究書については、すでに構想の半分にあたる章が執筆されていることから、数年の間に全体をまとめて、欧米の出版社から刊行する計画で作業を進めている。（この件では、海外のトップ研究者たちからも助言や推薦をいただいている)。

(2) また、2010 年 8 月に開催された第 9 回プラトン・シンポジウム（国際プラトン学会）では、メンバー6 名が研究発表を行った。また国際学会大会の折には、それまでに執筆された欧文研究論文を冊子にまとめ、参加者に配布して意見交換を行った。

(3) 日本語での研究成果は、主に 2011 年 3 月に発行された学術雑誌『理想』の「プラトン「国家」論」特集号に、メンバー8 名が最新の研究論文を掲載することで、一般に普及をはかった。

このような積極的な成果の欧文での公開をつうじて、日本での西洋古典学・古代哲学研究のレベルについて、高い評価と賞賛が寄せられている。今後さらに諸外国の研究者と協力しながら研究を続ける途筋がつけられたものと考えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３８件）

①Shinji Tanaka, “Justice and Reward: On the Art of Wage-Earning in Book 1 of the *Republic*”, *JASCA, Japan Studies in Classical Antiquity* 1, The Classical Society of Japan, 査読有、2011, pp. 89-97.

②納富信留、「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容」（上・下）、岩波書店『思想 1042-1043 号、査読無、2011 年、64-93, 47-75 頁

③納富信留、「プラトン『ポリテイア』研究の革新」、『学術の動向』16-1、日本学術会議、査読無、2011 年、14-17 頁.

④納富信留、「書き物は哲学をどう創り出したのか？」、『西洋古典学研究』58、日本西洋古典学会編、岩波書店、査読無、2010 年、87-94 頁.

⑤栗原裕次、「プロタゴラスの「大演説」に見る人間理解(*Prt*. 320c-328d)」、『ギリシャ哲学セミナー論集』6、査読無、2009 年。31-44 頁.

⑥高橋雅人、「プラトン『国家』における「女性の劇」の射程」、『女性学評論』23、神戸女学院大学女性学インスティチュート編、査読無、2009 年、1-17 頁.

⑦納富信留、「知るということ―不知と懐疑からの考察―」、『西日本哲学年報』16、西日本哲学会、査読有、2008 年、147-163 頁.

⑧荻原理、「プラトン　見つからなければ不正を冒していいか―生の質を決める魂のあり方を不正行為は損なってしまう―」、『人間会議』19、査読無、2008 年、78-83 頁.

⑨大芝芳弘、「カトゥッルスの難読箇所について(2)―Catull. 107.7-8―」、『フィロロギカ』3、査読有、2008 年、1-23 頁.

⑩納富信留、「プロタゴラス『神々について』断片と伝承」、『フィロロギカ』3、査読有、2008 年、24-47 頁.

⑪土橋茂樹、「ウーシア論の展開として見た三位一体論―バシレイオス研究序説―」、『中世哲学研究 VERITAS』27、京都大学中世哲学研究会編、査読有、2008 年、1-17 頁.

⑫Shigeki Tsuchihashi, “The Theological and Philosophical Background of Basil of Caesarea’s Trinitarian Theory- focusing on the comparison between his works and “his” Ep. 38, Scrinium 4”, *Revue de patrologie, d’hagiographie critique et d’histoire ecclésiastique (Patrologia Pacifica)* 23, 査読有, 2008, pp.60-76.

⑬近藤智彦、「アフロディシアスのアレクサンドロスによる運命論批判はアリストテレス的か？」、『東北哲学会年報』24、査読有、2008 年、1-14 頁.

〔学会発表〕（計４１件）

①納富信留、「相対性と相対主義」、第 49 回哲学会研究発表大会、東京大学文学部、2010 年 10 月 30 日.

②納富信留、「プラトン『ポリテイア』IX. 592A-B 再考」、第９回フィロロギカ研究集会（古典文献学研究会）、京都大学文学部、2010 年 10 月 16 日.

③納富信留、「『ポリテイア』の現代的意義」、第９回プラトン・シンポジウム市民公開講座「プラトン哲学の現代的意義―『ポリテイア』（国家篇）を中心に―」、日本西洋古典学会、日本学術会議主催、慶應義塾大学三田キャンパス、2010 年 8 月 7 日.

④Satoshi Ogihara, “The Choice of Life in the Myth of Er”, IX Symposium Platonicum, International Plato Society, Keio University, 6 Aug. 2010.

⑤Tomohiko Kondo, “Chrysippus’ Criticism of the Theory of Justice in Plato’s *Republic*”, IX Symposium Platonicum, International Plato Society, Keio University, 6 Aug. 2010.

⑥Shigeki Tsuchihasi, “Construction of a City in Speech and Purification of the City”, IX Symposium Platonicum, International Plato Society, Keio University, 3 Aug. 2010.

⑦Yoshinori Sano, “The Backgrounds of Plato’s Definition of Justice in *Republic* 4”, IX Symposium Platonicum, International Plato Society, Keio University, 3 Aug. 2010.

⑧ Yuji Kurihara, “Plato’s “True” Tyrant in *Republic* Book 9”, IX Symposium Platonicum, International Plato Society, Keio University, 3 Aug. 2010.

⑨ Noburu Notomi, “Glaucon's Challenge in

Plato's *Republic*", 6th International Colloquium on the Greco-Roman Studies, Seoul National University, Institute of Philosophy, Seoul, Korea, 1 Feb. 2010.

⑩Tomohiko Kondo, "Chrysippus' Reading of Plato's *Republic*", 6th International Colloquium on the Greco-Roman Studies, Seoul National University, Institute of Philosophy, Seoul, Korea, 1 Feb. 2010.

⑪ Noburu Notomi, "The Art of Extempore Speech: Alcidamas against Writing", 5th International Colloquium on the Greco-Roman Studies, Korean Society of Greco-Roman Studies, Seoul National University, Seoul, Korea, 29 Jan. 2010.

⑫ Noburu Notomi, "Dialectic as Ars Combinatoria: Plato's notion of philosophy in the *Sophist*", VII Symposium Platonicum Pragense, Czech Plato Society, Prague, Czech Republic, 12 Nov. 2009.

⑬納富信留、「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容―文献史・思想史的考察―」、第８回フィロロギカ研究会（古典文献学研究会）、東京大学文学部、2009 年 10 月 17 日.

⑭Yuji Kurihara, "Plato's Analogical Method of City and Individual about Injustice", 13th Conference of the International Federation of the Societies of Classical Studies (FIEC), Hunboldt-Universität zu Berlin, Germany, 28 Aug. 2009.

⑮納富信留、「古代ギリシアのオイコノミコス―異質性と共同性の緊張―」、第 20 回異文化経営学会研究会、明治大学駿河台キャンパス、2009 年 7 月 25 日.

⑯納富信留、「書き物は哲学をどう創り出したのか？」、日本西洋古典学会第 60 回大会シンポジウム「文字の力」、一橋大学、2009 年 6 月 6 日.

⑰Noburu Notomi, "Manipulating What Is Not: Plato against the Sophists", International Spring Seminar on Plato's *Sophist*, Centro de Cinencias de Benasque "Pedro Pascual", Benasque, Spain, 28 May 2009.

⑱納富信留、「"哲学" の普遍性―古代ギリシアと現代日本の対話」、第二回日中哲学フォーラム、日本哲学会・中国社会科学院主催、遼寧大学、瀋陽、中国、2009 年 4 月 25 日.

⑲Noburu Notomi, "Contemporary Meaning of Reading Plato in Japan and Asia", Platon Aujourd'hui, International Plato Society, C.N.R.S. Université Paris, Ouest Nanterre-La Défense, Paris, France, 14 Mar. 2009.

⑳Masahito Takahashi, "The Birth of a Homo Ludens: an analysis of Watsuji's Kojijunrei", 第 15 回日本韓国美学学会, Busan, Korea, 23 Feb. 2009.

㉑Noburu Notomi, "Socrates versus Sophists: Plato's Invention?", Socratica 2008: Seconde Giornate di Studio sulla Letteratura Socratica Antica, Instituto Italiano per gli Studi Filosofici, della Universita di Napoli, Napoli, Italia, 11 Dec. 2008.

㉒Yuji Kurihara, "Socratic Ignorance, or the Place of the *Alcibiades I* in Plato's Early Works", Socrates, Alcibiades, and the Divine Lover/ Educator, University of Newcastle, Australia, 5 Dec. 2008.

㉓土橋茂樹、「バシレイオスのヒュポスタシス−ウーシア論」、第 57 回中世哲学会大会、明治学院大学、2008 年 11 月 15 日.

㉔Noburu Notomi, "Where is the Philosopher? A single project of the *Sophist* and the *Statesman*", 1st Mediterranean Section Meeting of the International Plato Society, Facultat de Filosofia, Universitat de Barcelona, Barcelona, Spain, 29 Oct. 2008.

㉕土橋茂樹、「パシレイオス『聖霊論』におけるプロティノスの影響」、第 15 回新プラトン主義協会大会、法政大学、2008 年 9 月 7 日.

㉖近藤智彦、「運命と「自由意志」―ストア哲学と新プラトン主義の間―」、第 15 回新プラトン主義協会大会、法政大学、2008 年 9 月 6 日.

㉗Satoshi Ogihara, "The Epicurean Attitude to Death", International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies, Daegu, Korea, 6 Aug. 2008.

㉘Yuji Kurihara, "Plato on Injustice in *Republic* Book I", XXII World Congress of Philosophy, Seoul National University, Seoul, Korea, 3 Aug. 2008.

㉙ Noburu Notomi, "A Protagonist of the Sophistic Movement?: Protagoras in Historiography", Ancient Philosophy Seminar,

Department of Philosophy, Seoul National University, Seoul, Korea, 2 Aug. 2008.

㉚Noburu Notomi, “The Nature and Possibility of the Best City: Plato’s *Republic* in its historical contexts”, V Seminário Internacional Archai, Sociedade Brasileira de Platonistas e Núcleo de Estudos Clássicos, Universidade de Brasília, Brasilia, Brasil, 2 Jun. 2008.

〔図書〕（計１６件）
①納富信留「プラトン『ポリテイア』の現代的意義」、三田哲学会編『自省する知』、慶應義塾大学出版会、2011 年、121-147 頁

②納富信留、栗原裕次、荻原理、田坂さつき、土橋茂樹、高橋雅人、佐野好則、大芝芳弘、他『理想：プラトンの「国家」論』、686 号、理想社、2011 年、2-111 頁

③Noburu Notomi, “Image-Making in *Republic* X and the *Sophist*: Plato's criticism of the poet and the sophist”, *Plato and the Poets*, Leiden: Brill, 2011, pp.299-326.

④納富信留、近藤智彦他、『プラトン『国家』の読み方―マリオ・ヴェジェッティ教授論文集―』、国際プラトン学会編, 2010, pp.1-24.

⑤Noburu Notomi, “The Nature and Possibility of the Best City: Plato’s *Republic* in its historical contexts”, *Plato and the City*, Academia Verlag, Sankt Augustin, 2010, pp.113-123.

⑥ Noburu Notomi, “Glaucon's Challenge”, *Philosophy and Dialogue, Studies on Plato’s Dialogues*, Vol. II, Barceonesa d'Editions, Barcelona, 2010, pp.35-50.

⑦高橋雅人、『プラトン『国家』における正義と自由』、知泉書館、2010 年、viii+362 頁.

⑧納富信留、「知の創発性―古代ギリシア哲学からの挑戦」、『岩波講座　哲学４　知識／情報の哲学』、岩波書店、2008 年、77-97 頁.

⑨高橋雅人、「テオーリア、プラクシス、ポイエーシス知の創発性―古代ギリシア哲学からの挑戦」、『岩波講座　哲学６　モラス／行為の哲学』、岩波書店、2008 年、17-35 頁.

⑩佐野好則、『ギリシア喜劇全集第二巻　アリストパネースⅡ』(『平和』訳・注・解説)、岩波書店、2008 年、107-203, 357-366 頁.

〔その他〕
ホームページ等
（国際プラトン学会の東京大会 HP）
http://phil.flet.keio.ac.jp/ips2010/

６．研究組織
(1)研究代表者
納富　信留（NOTOMI NOBURU）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：５０２９４８４８

(2)研究分担者
栗原　裕次（KURIHARA YUJI）
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：４０２８２７８５
佐野　好則（SANO YOSHINORI）
国際基督教大学・教養学部・上級准教授
研究者番号：５０２９５４５８
（H21→H22：連携研究者）
荻原　理（OGIHARA SATOSHI）
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：００３４４６３０
大芝　芳弘（OSHIBA YOSHIHIRO）
首都大学東京・人文科学研究科（研究院）・教授
研究者番号：７０１８５２４７
（H21→H22：連携研究者）
田中　伸司（TANAKA SHINJI）
静岡大学・人文学部・教授
研究者番号：５０２０７０９９
（H21→H22：連携研究者）
高橋　雅人（TAKAHASHI　MASAHITO）
神戸女学院大学・文学部・教授
研究者番号：９０３０９４２７
（H21→H22：連携研究者）
土橋　茂樹（TSUCHIHASHI SHIGEKI）
中央大学・文学部・教授
研究者番号：８０２０７３９９
（H21→H22：連携研究者）
田坂　さつき（TASAKA SATSUKI）
立正大学・文学部・准教授
研究者番号：７０３０８３３６
近藤　智彦（KONDO TOMOHIKO）
秋田大学・教育文化学部・講師
研究者番号：３０４２２３８０
（H21→H22：連携研究者）